

令和3年度 高朋高等学校経営計画

1 学校教育目標

建学の精神「文武不岐」に則り、優れた知性と豊かな情操と健全な心身を持ち、民主的な社会の発展に貢献できる自主的で創造性に富む人間を育成する。

＜教育方針＞

- (1) 個人の能力と個性を大切にする学習指導
- (2) 豊かな人間性と友情を培い、徳性を磨く生活指導
- (3) 己を見つめ、己に打ち克ち、集中力を育てる座禅指導と心の修養
- (4) 高度情報化社会に即応できる実践的情報教育
- (5) 国際感覚と広い視野を身に付ける国際理解・国際交流教育

2 学校の特徴

昭和36年に北日本電波高校として開校し、以来、校名や学科、課程改編を経て、昭和53年に全日制普通科高校となる。そして、平成11年に開設した単位制課程では、①少人数学級での習熟度別学習 ②科目選択で授業を選べるシステム ③一人一人の進路に応じたガイダンス ④キャリアカウンセラーによる徹底した就職支援 ⑤克己心と集中力を育てる座禅指導とこころの教育 ⑥海外研修旅行を通した国際理解・国際交流教育など、特色ある教育実践を行っている。

「文と武は分けることができないものである」という「文武不岐」を建学の精神とし、生徒信条である「真理」「友愛」「徳性」の育成を目指して教育活動を行っている。

生徒会活動では、毎朝の挨拶運動をはじめ、通学路清掃や「RUN伴」参加などのボランティア活動に自主的に取り組んでいる。

部活動では、春の全国選抜大会に4回、夏の全国高校総体に6回出場の剣道部、110mハードルやハンマー投げで全国高校総体に出場した陸上競技部、平成29年の第99回全国高校野球選手権富山大会で準優勝した硬式野球部が実績を残している。文化部においても、軽音楽部や美術部、写真部、将棋部などが楽しく活動している。これらの部活動を通して、学校全体の雰囲気が高く、活気をもたらしている。

3 学校の現状と課題

本校は、小規模校の強みを生かし、本校ならではの魅力と活力のある学校づくりに努めている。本校を選んで入学してきた生徒たちが、希望をもって学び、いろいろな場面で勇気を出して、新たな一歩を踏み出し、数多くの経験を積み重ねて自信をもって卒業していけるように、全教職員が一丸となってサポートを継続している。本校には、進学や就職に向けて、自らの目標を達成しようと頑張っている生徒、基礎学力がやや乏しいが日々努力を続けている生徒、不登校を経験し本校入学を機に自分を変えようとチャレンジしている生徒などがいる。一方で、様々な事情で、入学当初の「この高校で頑張ろう」というモチベーションが長続きしない生徒も見られる。こういう生徒たちを支援するために、スクールソーシャルワーカーや特別支援コーディネーターを交え、チームによる組織的な対応に努めている。

4 本年度の重点教育目標

- (1) 基礎学力を向上させる学習指導 → 「教育」と「学習」の相乗効果を図る。
- (2) 学校生活を充実させる生徒指導 → 自己指導能力の向上を図る。
- (3) 進路目標を明確にさせる進路指導 → よりよい生き方の実践を図る。

5 本年度の重点課題（アクションプラン）

- (1) 教科指導・・・学習環境を整え、基本的な学習習慣を定着させ、学習意欲の喚起、学力の向上を図る。
- (2) 生徒指導・・・生徒指導の機能を十分に発揮するとともに、自己指導能力を身に付けた生徒を育成する。
- (3) 進路指導・・・各学年のガイダンス指導を充実させ、生徒一人一人の能力・適性を生かす進路の目標実現に向けた適切な指導を行う。
- (4) 教育相談・・・生徒や保護者の不安や悩みを共感的に受け止め、チームで粘り強く問題解決に努める。
- (5) 特別活動・・・望ましい集団活動を通して、主体的・実践的な態度を育成する。生徒会活動や学校行事に、積極的に参加するよう支援する。
- (6) 道徳教育・・・全教育活動を通して、人権意識を高め、心豊かでたくましく生きようとする道徳性を育成する。
- (7) 保健・安全指導・・・生命の尊さを自覚し、心身ともに健康で、安全な生活を送る態度を育成する。
- (8) 環境教育・・・清掃活動や身の回りの整理整頓を通して、協力して清潔な環境を保とうとする態度を育成する。
- (9) 危機管理・・・危機管理体制を確立し、自然災害や不審者侵入、問題行動、事故等が発生した場合は、迅速に組織で確実な対応を行う。
- (10) 学年運営・・・各学年の課題を明確にし、具体的な目標の実現に向けて、きめ細かな指導を継続し、一人一人の活動状況や集団の様子から改善を図る。
- (11) 生徒募集・・・志願者、入学者の増員を図る。

6 各重点課題の目標と方策

重点課題	(1) 教科指導
目 標	学習環境を整え、基本的な学習習慣を定着させ、学習意欲の喚起、学力の向上を図る。
現 状	①学習意欲が低く、家庭学習の習慣が身に付いていない生徒が多いせいか、基礎学力の維持・向上につなげていない。 ②県外生の中に、学力優秀者が数人入学した。
方 策	①「普段の授業を大切に」を合い言葉に、生徒に授業に集中させるため学習課題を明確にする。 ②学習意欲を喚起するために、導入部分に工夫を凝らし、教材開発を重ねて分かりやすく楽しい内容にする。予習・復習を行わせ、習熟度状況に応じた対応を行う。 ③研究授業等を積極的に行い、事後研究会で十分に協議し、教員の授業力を高める。 ④習熟度別クラスでの対応を明確にし、特に、国立4年制大学希望者の指導を強化する。

重点課題	(2) 生徒指導
目 標	生徒指導の機能を十分に発揮するとともに、自己指導能力を身に付けた生徒を育成する。
現 状	①基本的な生活習慣が確立しておらず、安易に遅刻や欠席する生徒が多い。また、規範意識が足りない生徒がいる。 ②学習に集中できず、授業中の私語や他人に迷惑をかける行為が見られる。
方 策	①基本的な生活習慣を確立するために、学年と家庭との連携を密にしながら、具体的な視点から粘り強く指導し、遅刻、欠席を少なくし規範意識をもたせる。 ②授業に集中できるルールを徹底するとともに、学習環境を整備し、学習意欲を向上させる。

重点課題	(3) 進路指導
目 標	各学年のガイダンス指導を充実し、生徒一人一人の能力・適性を生かす進路の目標実現に向けた適切な指導を行う。
現 状	近年は進路希望先が就職・進学ともに県内か、近県を望む生徒が大半を占めている。
方 策	①進路希望調査を年間3回実施する。 ②進路講習会(2回)、企業・大学見学会(1回)を全学年で実施する。 ③キャリアカウンセラーを中心に徹底した事前・事後指導を行う。(例、二者面談、四者面談、会社見学、面接指導、文書作成指導など) ④全学年で、高校生のための学びの基礎診断、進学補習、個別特別指導を行い、基礎学力、応用力を育成する。特に、コミュニケーション能力の向上に力を注ぐ。 ⑤大学主催の入試説明会やオープンキャンパス(複数回参加)へ3年生は100%、2年生は50%の参加を促す。

重点課題	(4) 教育相談
目 標	生徒や保護者の不安や悩みを共感的に受け止め、チームで粘り強く問題解決に努める。
現 状	①中学校時代に不登校であったり、相談室登校であったりした生徒が多い。 ②自己教育力やコミュニケーション能力が身に付いておらず、自ら積極的に問題解決をしようとする態度に欠ける生徒が少なくない。 ③個別の指導計画の作成や面接の実施により、積極的に生徒に関わっているので、教師と生徒との関係は全体的に良好である。また、自己の現状を理解し、目標をもって行動する生徒が増えている。 ④不登校生徒の指導については目に見える形での成果が上がりにくい。
方 策	①中学校からの情報やアンケート等で生徒の実態把握に努める。 ②教科担当者や学年学級担当者が情報を共有し、より効果的な指導を目指す。 ③教育相談委員会を適宜開催し、情報交換等を通して、目標実現のために積極的に活動する生徒の育成を目指す。 ④外部講師による教育相談研修会を年5回以上開催し、教師力の向上を図る。 ⑤不登校生徒の指導については、進路指導部、生徒指導部、養護教諭、SSWが学年の枠を超えて連携し、生徒の自発的な登校を促す。

重点課題	(5) 特別活動
目 標	望ましい集団活動を通して、主体的・実践的な態度を育成する。生徒会活動や学校行事に、積極的に参加するよう支援する。
現 状	生徒会活動や学校行事等に熱心に取り組む生徒は多いが、その一方で、自己肯定感やコミュニケーション能力が低いため、集団活動が苦手な生徒や、関心・意欲が低い生徒も見られる。
方 策	①生徒会活動、学校行事、部活動への積極的な参加を促す。 ②生徒会・専門委員会の活動をより活性化する。 ③人との関わりを深め、協力し、互いに尊重し合える場面を多く設定する。(コロナの終息の見込がないため行事や活動をするうえでの中身を工夫する) ④校内放送を充実させる。

重点課題	(6) 道徳教育
目 標	全教育活動を通して、人権意識を高め、心豊かでたくましく生きようとする道徳性を育成する。
現 状	①将来のことや人間関係づくり、テストなどに対する不安や、周囲との関わりを避ける生活から、規範意識の低い生徒や他人とのコミュニケーションがうまくとれない生徒が少なくない。 ②学習意欲や主体性が低く、何をよりどころに自分を見つめ直せばよいのか、その規範がよくわからない生徒も見られる。
方 策	①行事ごとに振り返りの場をもち、自己の在り方についての自覚を深める。 ②HR等におけるグループ活動やディスカッションを通して、多様な考えを知ったりすることができる場面を設定する。 ③全教育活動において「やりっぱなし」や「できればいい」で終わることなく、生徒同士が認め合ったり、教師が賞賛したりすることによって自尊感情や自己肯定感の育成に努める。 ④「人は、誰もがよりよく生きたいと願っている」という人間観に立ち、生徒に寄り添いながら指導を行う。

重点課題	(7) 保健・安全指導
目 標	生命の尊さを自覚し、心身ともに健康で、安全な生活を送る態度を育成する。
現 状	①新型コロナウイルス感染症が流行している。 ②睡眠不足から生じる体調不良や学校生活への不適応、家庭内の問題、人間関係等が複雑に絡み合い、心身の不調を起こしている生徒が少なくない。
方 策	①新型コロナウイルス感染症が流行しているので、感染症対策を学校全体で共通理解し実践する。 ②生徒に自分の健康問題を気付かせ、改善する手立てを工夫する。個々の問題に対応できるよう学年や相談担当者と連携し支援する。 ③保健だよりや生徒委員会活動等を活用し、情報提供と注意喚起をする。

重点課題	(8) 環境教育
目 標	清掃活動や身の回りの整理整頓を通して、協力して清潔な環境を保とうとする態度を育成する。
現 状	①教室などの環境整備に努めようとする意識が低い現状がある。 ②教室などの環境整備に必要な用具は整ったが、それを活用し切れていない。
方 策	①生徒たちの環境整備への意識が高まるような具体的な指導を行う。 (例) ～ダスキン掃除教育カリキュラムの利用～ ②設備の充実(教室に掃除用具がかけられるフックや雑巾掛けの設置)を図る。 ③教室などの掲示物を工夫し、環境整備への取り組みの意識付けを行う。

重点課題	(9) 危機管理
目 標	危機管理体制を確立し、自然災害や不審者侵入、問題行動、事故等が発生した場合は、迅速に組織で確実な対応を行う。
現 状	昨年度は、様々な問題行動や事故等に対して、組織的に対応ができた。しかし、初期対応が遅れたり、迅速で丁寧な対応ができなかったりすることがあった。
方 策	①「迅速な報連相」「初期対応」「生徒に軸足を置いた丁寧な対応」をキーワードに教職員の指導力を高める。 ②身近な事例等を示し、教職員の危機管理意識を高める。

重点課題	(10-1) 1学年運営
目 標	基本的な生活習慣を身に付け、学習活動に打ち込ませる。
現 状	中学校との違いを理解し、各自が新しい生活に対応しようとしている。その中で、思うようにいかず、体調不良を伝える生徒もいる。
方 策	①生徒の登校や学習状況を把握し、必要があれば保護者に連絡し、家庭と協力しながら対応する。 ②授業でわからなかったところの補充や検定等に向けた学習が行える場を放課後に設定する。 ③休み時間にこまめな巡視を行い教室移動を時間内に終わらせスムーズな授業開始につなげる。 ④面接を見据えて、授業開始の挨拶の声をしっかり出すように指導する。

重点課題	(10-2) 2学年運営
目 標	中堅の学年として、学校行事、生徒会、部活動などで中心的役割を担い、生徒一人ひとりの能力を伸ばす。社会人への心構えを持たせる。
現 状	子どもから大人への過渡期にある。わがままな言行を減らし、自分の欲求を抑える力を身に付ける必要がある。
方 策	①基本的な生活習慣、規範意識、挨拶やマナーなどを徹底する。 ②生徒一人ひとりが活躍できる機会をできる限り多く設ける。 ③大学や専門学校のオープンキャンパス等を早めに体験させる。

重点課題	(10-3) 3学年運営
目 標	自己を見つめ、進路目標を実現する。
現 状	最高学年の自覚をもって頑張ろうとしている生徒もいる。その一方、まだまだ考え方が甘い生徒もおり、限られた時間の中で社会に出る準備をさせる必要がある。
方 策	①「時間を守る」「ルールを守る」ことが当たり前になるように指導を継続する。 ②生徒や保護者との信頼関係を築き、進路決定に向け、個に応じた的確な情報提供を行い、目標達成に向けて努力させる。

重点課題	(11) 生徒募集
目 標	志願者、入学者の増員を図る。
現 状	①中学校卒業者数の減少に伴い、志願者数、入学者数ともに減少傾向であったが昨年度は募集定員に近づいた。 ②専願受験者数が県内及び県外の野球奨学生で増加した。
方 策	①中学校訪問では、本校の教育内容を具体的に説明し、生徒の成長状況を伝えることにより、本校への理解を深めてもらい、学校見学・相談会への参加の声かけをお願いする。 ②毎月発行している学校だよりをHPに掲載し、本校の活動の様子を広く知らせる。 ③中学校主催の高校説明会に出席し、生徒の成長や活躍・進路先をアピールする。 ④学校見学や個別相談の希望があれば随時行う。 ⑤県外の生徒募集を積極的に行う。